

安曇野市交流学習センター運営委員会

- 1 協議会名.....平成27年度第4回安曇野市交流学習センター運営委員会
- 2 日 時.....平成27年10月23日 午後1時30分から3時30分まで
- 3 会 場.....安曇野市市役所本庁舎 会議室301
- 4 出席者 神谷委員長、山本副委員長、古畑委員、小平委員、内田委員、加々美委員、重野委員、清水委員、鈴木委員、曽根原委員
- 5 市側出席者 橋渡教育長、高嶋課長兼穂高交流学習センター所長、青柳豊科交流学習センター所長、小林課長補佐、財津係長、青木主事
- 6 公開・非公開の別.....公開
- 7 傍聴人.....0人.....記者.....0人.....
- 8 会議概要作成年月日.....平成27年11月6日

協 議 事 項 等

○会議の概要

1. 開 会 (高嶋課長)
2. あいさつ (神谷委員長、橋渡教育長)
3. 協議・説明
 - (1) 安曇野市交流学習センターの管理・運営の方向性について
 - (2) 平成28年度事業について
 - (3) その他

○協議概要

- (1) 安曇野市交流学習センターの管理・運営の方向性について
財津係長より説明。

委員長・まず、前回の委員会で視察した“武蔵野プレイス”の感想をお聞きする。

委員・“武蔵野プレイス”はすでに武蔵野市が構想の中に図書館、市民活動等を構成し、全体像ができています。活動を通して人が集まれるスペースとなっており、図書館にも足が向くと思う。

委員・安曇野市の環境とは異なるが、市民の交流の場としては共通であった。市民活動団体専用のポストやロッカーがあり、そこでの意見交換が市民の交流となると感じる。周辺大学との交流事業はうらやましく、“みらい”や“きぼう”でも大学と交流できたら良い。館内のカフェは、来館の目的となり、施設の収入にもなる。

委員・指定管理者制度を導入したことで、運営はうまくいっていると思うが、建設の段階で指定管理者が加わったのか、行政が計画した上でお願いしたのか分からない。

委員・立派な建物だが、それは費用をかければできる。指定管理者が運営した場合、何を基準に評価するのか。民間の考えで評価すれば、人集めをメインに運営すると思う、違和感がある。視察先は学習センターとしては少し異質だと感じた。

委員・青少年の居場所ができていたことが印象的だった。“武蔵野プレイス”の課題はボランティアの参画と聞いた。明科の“ひまわり”は市民ボランティアで作成された経緯がある。監視の目もできるため、運営に市民も関わることを検討してはどうか。

委員・開館当初より指定管理者が運営している“武蔵野プレイス”と既存の施設に導入を検討している“みらい”、“きぼう”は根本的に違う。導入には検討が必要だ。

委員・視察先は恵まれた環境であったが、直営でも運営できる。他が成功したから安曇野市も導入するという事にはならない。図書館が利益を求めると佐賀県武雄市の図書館になってしまう。図書館の根源は選書であり、品格が問われる。行政とともに市民が選書をする等、市民が担える部分もあるのではないかと。Library of the Year 2015を受賞し、評価の高い塩尻市の“えんぱーく”は昨年度から市民の提案を受け入れ、運営する方向性を打ち出している。

委員・“えんぱーく”を利用したことがあるが、商業施設と連絡通路でつながっているため

- 便利で、周辺でイベントも開催されていた。子どものみの利用も安心だった。
- 委員長・続いて、同じく前回視察した“韮崎市民交流センター”の感想をお聞きする。
- 委員・商業施設を改装した施設であるため、スペースの限界を感じた。また、図書館部分と交流センター部分で指定管理者が異なっていたが、“みらい”と“きぼう”には、図書館とホール、学習スペースがある。それらを結び付けて事業を行うためにも、一つの運営体を考えていくのが良い。
- 委員・指定管理者の考え方は真摯で、好感が持てた。利用者とも良い関係を築いており、職員の教育も行き届いている。指定管理者は運営に係る費用の99.9%を指定管理料でまかなっており、行政と指定管理者が話し合っただけで施設を作り上げる良い関係が築けていた。導入するのであれば、指定管理者の資質を見て選定することが必要だ。行政との関係を密にし、良いものを作り出す指定管理者が理想であり、利益を求める会社にはお願いはできない。導入は否定しないが、難しいと思う。
- 委員・民間の良いところは確かにあって、利用者のほうを向いて運営している。しかし施設内で騒がしい子どもは来ないようにしたと聞いた。財政と言ってしまうとそれまでだが、なぜ市が導入を検討しているのかわからない。また、指定管理者が運営して失敗した事例を聞きたい。
- 委員・指定管理者の取り組みは立派で、安曇野市でもあのような指定管理者を選定できるか心配だ。課題は人集めだと聞き、指定管理者が運営をしたら人が集まるのは幻想だと感じた。最新のシステムやソフトが人を集めるのであり、導入には疑問が残る。
- 委員・指定管理者の態度は好印象であった。安曇野市も良いが、まだ勉強しても良い。時代の流れでその方向になるのもありだが、良い指定管理者を選定できるか不安と期待がある。
- 委員・接客態度がよく、研修を徹底していると感じた。接遇をきちんとすることは大切であり、その部分をみて市民も集まる。幅広い年代の利用者がいたため、参考にする部分はある。
- 委員・指定管理者は利益を目的とせず、運営の大部分を指定管理料でまかない、黒字経営をしている。その点は参考になる。
- 委員・皆さんの意見を聞いていたが、導入には賛否両論ある。指定管理者の選定方法に興味があったが、視察先は開館当初から指定管理者が運営しているため、成功していると思う。安曇野市はすでに直営で運営してきており、難しい面がある。指定管理者の選定が重要であり、運営側が利益を求めている考えであれば経営は変わってくる。早速ではなく、十分考慮して取り組んでほしい。
- 委員・導入の目的は何か。サービス向上は直営でも取り組める。市民とともに運営を行うことを考慮し、方針を決めていただきたい。
- 委員・視察先は行政が青少年活動支援の理念を持っていた。交流学习センターは学習の場は確保されているが、青少年活動の場を作ると良い。青少年が安曇野市を良いところだと思うところへつなげていくことも大切だ。
- 委員長・直営と指定管理者とでどれほど経費が異なるのか示していただきたい。
- 事務局・“みらい”も“きぼう”も多くの皆様に利用していただき、他の自治体からも視察が来る。その中で運営の質を落とさず、民でできることは民でやるということが基本の考えにある。導入の判断のポイントは、安曇野市アウトソーシングに関する指針にあるように、経費・効率性・市民サービス・市民の協働の検証である。図書館司書等の非常勤職員を継続的に雇用するのであれば、正規職員として雇用が必要となる。しかし市はそこまでのコストをかけることは難しく、短期契約を更新している状況で、その点を絡めて検証したい。市としては、より良い方向として直営が良いのか、いつまでも直営で良いのか、今のタイミングは良くないが継続して検討するのか、ご意見をいただきたい。導入の目的は、サービスの向上と人材の確保が大きいものとなる。そのためにスキルの高い経験ある職員を安定的に雇用することが必要だ。現在、図書館は5名の正規職員で運営しているが、図書館司書の資格を持つ職員は1名のみである。市の職員は人事異動があり、安定したサービスを提供するのは難しい。また、非常勤職員の図書館司書の雇用期間は7年と限定されている。

指定管理者が運営することで継続的な雇用が期待できるため、安心して働ける職場づくりを行いたい。直営でも評価の高い“えんぱーく”の館長は市の職員から公募で選ばれた図書館司書資格を持つ職員である。安曇野市ではその体制はとれていない。その体制づくりを進めることも一つの手法だが、もう一つとして、専門的ノウハウある指定管理者が行政との関係を密にし、運営する考えがある。指定管理者は公募となると思うので、指定管理者側からの提案を審査して決定することになる。導入する場合には、現状の待遇を確保する指定管理者にお願いできればと思う。導入後に失敗した事例についてだが、直営に戻した例はほとんどなく、指定期間を伸ばして更新する傾向がある。

委員・図書館司書の雇用期間を変えることはできないのか。

事務局・図書館司書のみ特別な形をとることはできず、変更は難しい。図書館司書には学校図書館と公共図書館の二つの職場がある。職員課へはその二つで職場替えが可能であるか要望している。指定管理者の運営となれば、優秀な方で司書の統括的な仕事をしたい場合、正規職員としての採用の道も出てくる。

委員・柔軟な人事の考え方は行政運営のプラスとなるため、取り入れていただきたい。

事務局・市は、人口規模に見合った職員数を採用し、運営している。図書館のみで職員数を決めることはできない。財政面を考慮しながらサービスを高めるよう、考えていかなくてはならない。

委員・導入のメリットはある。市はサービス向上という漠然的なことではなく、充実させる部分の方向性を示していただきたい。学校との連携も重要で、小中学校の教科書の内容を理解し、選書を行っていただきたい。指定管理者の運営であっても、各専門家の専門家がいれば充実が期待できる。

委員・市には導入を進めたい意向があるが、その長所と短所を示していただきたい。

(2) 事業計画

財津係長、青柳館長より説明。

委員・交流学习センターは様々な事業を行っているが、交流学习施設は貸館を中心に運営している。この点はどのように捉えているのか。

事務局・この委員会では、交流学习センターである“みらい”と“きぼう”の事業を検討している。交流学习施設である“ひまわり”は別条例で運用しているが、図書館を核とした交流と学習の場を統括して議論する場に変えていきたいと考えている。どういった枠組みにするか全館の整備計画と検討している。

委員・広報活動を様々な手法で行っていただきたい。

事務局・事業計画に記載した事業は、広報紙や市ホームページへの掲載、ポスター、チラシの作成と配布、市長の定例記者会見で紹介し、広報を行っている。新聞にも取り上げていただき、予定人数を集めて開催している企画が多い。

委員・交流学习センターに関する情報をメール配信するサービスを始めてはどうか。

委員・委員を交え、事業を立案してはどうか。安曇野市の歴史的人物の紹介とともに、関連する文献の展示や講演会を開催する等、図書館、ホール、ギャラリーを有機的に結合する事業も検討する余地がある。近隣大学との展示企画も行ってはどうか。

事務局・メール配信サービスは宣伝効果があり、検討したい。市民の企画立案は、開館当初“みらい”も行っていたため、企画を公募する形で取り組みたい。具体化できるかは未定だが、大学との連携については、来年度“きぼう”で実施を予定する音楽のワークショップでの連携を検討している。先人の顕彰は博物館構想でも触れており、博物館と連携して取り組みたいと考えている。

以上